

## マルコの福音書 13章 1-13節 イエスに従う代償

今日からマルコの福音書13章を始めます。本書で私たちがどの段階にいるのかを再確認しましょう。私たちはまだイエス様の地上での生涯の最後の週の火曜日に起こった出来事について話しています。しかし今、イエス様の焦点は、御自身の死を前にした弟子たちとの最後の日々当てられています。もう世の人たちのための公のミニストリーではなく、この12人のためだけでした。イエス様は弟子たちに、来るべき御自身の死と復活、そして昇天の後、肉体的にはもはや彼らと一緒にいない時のために彼らを備え整えることを望まれているのです。このため、13章は主として明らかに預言的であり、難解です。私たちは預言のすべての解釈に同意できないかもしれませんが、それは問題ではありません。私は、終末論や神学における未来の事柄の研究は、信者を分裂させるべきものとは思っていませんし、YIBCでは特定の見解について教義的に公式な立場を取ることもありません。ですから、解釈に関する発言もしますが、マルコ13章の詳細をどのように解釈するにしても、イエス様が私たちに見させようとなさっていることの実践的側面に最も重きを置くようにしたいと思います。そして、今週の最初の13節だけの箇所は、この章の後半ほど難解ではありません。

この箇所では、イエス様が弟子たちに従う者としての代償が何であるかを説き、彼の議論を3つの部分に分けて展開しています。まず、物理的な集会場所の欠如が弟子としての活動を困難にすることから始めましょう。マルコ書13章1-2節にはこうあります。

**マルコの福音書 13章 1-13節 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子の一人がイエスに言った。「先生、ご覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」 2すると、イエスは彼に言われた。「この大きな建物を見ているのですか。ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません。」**

イエス様がお生まれになった当時を治めていたローマ帝国の支配者ヘロデは、バビロン捕囚の後にイスラエルに帰還した人々によって建てられた神殿を再建・修復していました。歴史的な記録によれば、イエスの生涯のこの時点では、神殿の再建と修復はこのほんの数年前に終わっていたはずですが、ですから、その神殿を見ることは畏敬の念を抱かせたことでしょう。歴史家によれば、前面が金で覆われた白く輝く美しい神殿は、ヘロデの最も偉大な建築プロジェクトの一つでした。ですからもちろん、弟子たちを含むイスラエルの人々は、自分たちが崇拝すると主張する神の栄光を目に見える形で世界に示す神殿を誇りに思っていました。ユダヤ人にとって、神への礼拝の中心はエルサレムのその神殿にありました。もちろん、彼らは地域の礼拝堂に集まって一緒に礼拝しましたが、全員がエルサレムの実際の神殿で礼拝する機会を心待ちにしていたことでしょう。もちろん、イエス様は丸一日をその神殿で教えを説かれたばかりで、人々を神に引き寄せる礼拝と教えに献げられた場所があることに本質的な問題はありません。しかし、その場所がなくなったとしたらどうなるのでしょうか？それが、イエス様が弟子たちに語るこれから起こることでした。これが、この章でイエス様が弟子たちに語った最初の預言です。彼らの礼拝と信仰の中心であるこの美しい神殿は、50年も経たないうちに、西暦70年にローマ軍によって完全に破壊されました。イエスが自称していた人物であったという事実を少なくとも指し示すものの一つは、イエスが預言した事柄が、実際に起こったことであると容易に検証可能なものであったという事実です。西暦66年にローマ帝国の支配に対する反乱があり、ローマ政府はエルサレムの町、特に神殿を破壊することによって反乱を鎮圧しました。終わった時には建物は跡形も残っていませんでした。

その出来事が起こった頃には、弟子たちはイエスが去った後に始まった教会を築き上げている最中で、教会は建物を重視していませんでした。使徒の働き2章46節は、この最初のクリスチャンたちについてこう語っています。 **使徒の働き 2章46節** そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

当時、彼らはまだ宮に集まって一緒に礼拝していましたが、彼らは家庭にも集まり食事を共にして一ました。数章の後、クリスチャンたちが宮や地域のユダヤ教の礼拝堂から追い出された後、使徒の働き12章12節に、彼らが祈るために集まっていた場所について書かれています。

**使徒の働き 12章 12節** **それが分かったので、ペテロは、マルコと呼ばれているヨハネの母マリアの家に行った。そこには多くの人々が集まって、祈っていた。** 信者たちは祈るために家に集ま

っていました。もちろん、彼らの家は中庭が広く、大勢が集まれるようなものでした。しかし、教会における弟子訓練の焦点は、建物に集中することから、単に他の人々と集まって礼拝を献げ、神の御言葉によって共に成長することに移っていました。弟子訓練と弟子作りが単に建物に人を集めるだけのことでしたら容易です。今日ここにおられる皆さんの中には、私たちが教会堂と呼んでいる建物の中での集会に参加しておられますが、キリスト信者ではない方もいます。弟子であることが、建物の中での宗教的行為を中心に回っているのであれば、それはとても楽でしょう。もし私がこの犠牲を献げ、この祈りを唱え、この建物で起こるこのことを行えば私は神を礼拝する者、あるいはキリストに従う者になるのであれば、確かに、建物があることは弟子を作る上で役立ちますが、イエス様に従うこと、イエス様の弟子であることを、利用できる建物があることと決して混同してはなりません。私が毎週私たちに言い聞かせているように、この建物で礼拝に集う私たちが教会であるのと同様に、ここを離れても私たちは教会なのです。もし神がこの建物を奪われると決められたとしても、私たち自身が弟子となり、他の人々を弟子とすることが私たちの使命であることに変わりはありません。

しかし、礼拝の場所である宮を失うことだけがそれを難しくしているのではなく、争いがあることが弟子としての活動を難しくしているのです。3-8節を見てください。**3 イエスがオリーブ山で宮に向かって座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに尋ねた。4 「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。また、それらがすべて終わりに近づくときのしるしは、どのようなものですか。」5 それで、イエスは彼らに話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。6 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそ、その者だ』と言って、多くの人を惑わします。7 また、戦争や戦争のうわさを聞いても、うろたえてはいけません。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。8 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで地震があり、飢饉も起こるからです。これらのことは産みの苦しみの始まりです。**

宮の美しさを目の前にして、弟子たち（少なくとも4人は）は当然のように、**いつ、そのようなことが起こるのですか**と尋ねました。これは、私たちが預言についてよくする質問と同じです。歴史上、多くの人々がその質問に答えるために、特にイエスがいつ再臨されるのかを知るために聖書を学んできました。しかし、イエスは彼らに具体的な答えを与えません。預言には目的があるからです。その目的とは、私たちに警告を発し、これから起こることを期待して待ち続けることです。キリストが再臨される正確な時を知っていたら、キリストがいつ再臨されてもおかしくないという期待を持って、私たちは命じられているような生き方はしないでしょ。知らないということは、実は私たちの信仰を成長させ、キリストとの関係において、死によって、あるいはキリストの再臨によって、いつ完全に実現するかわからない希望を私たちに与えてくれるのです。ですから、テトスへの手紙はこう言えます。**テトスへの手紙 2章 13節**

**13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。**

そして、イエス様は彼らが期待しているような答えを与えません。その代わりに、イエス様は**そういうことは必ず起こります**と言われました。そして、イエス様は宮の崩壊に言及しておられるようです。そして、このようなことは、戦争や自然災害とともに、終わることがないようにやってくるだろうと言われました。イエス様の言葉が結局どれほど真実であったかは信じられないほどです。この時点から2000年を経た今、20世紀は世界の歴史上最も血なまぐさい時代であり、戦争によって失われた命は他のどの時代よりも多かったのです。しかし、戦争の世界的な性質と新しいテクノロジーが人命をより大きく奪う能力を生み出した20世紀以前でさえ、世界は決して平和ではありませんでした。

アメリカにおいて、私が世界史やアメリカ史で教わったのは、基本的に世界や国の風景に変化をもたらしたのはどの戦争だったかということでした。そして、戦争は今日まで続いています。ニュースを見ていると、平和でさえも非常に希薄で弱いものに思えます。同じニュースでも、昨今、年に数回は、地震や飢饉のような大きな自然災害の話が届けられます。しかし、イエス様が指摘なさっているのは、弟子であること、弟子を作ることの役割は、どんな世界情勢や紛争の前でも全く変わらないということです。戦争は起こります。自然災害はやってきます。しかし、真

の弟子は、それらすべての状況下でもキリストに従い続けます。さらに困難にする理由が6節にあります。**6 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそ、その者だ』と言って、多くの人を惑わします。**

事実、歴史を通じて、そのような戦争のいくつかは、あるレベルではイエス様御自身が持っておられたと同じ力を自らあると主張するメシア的人物らによって引き起こされてきました。神からの新しいお告げを持っていると主張する人々によって、あるいは自分たちこそがイエスの再来だと主張する人々によって、さまざまな偽りの宗教が台頭してきました。モルモン、末日聖徒は、基本的な聖書理解を持って育ったジョセフ・スミスが、現代の教会はすべて堕落しているという幻を見たと言ったために設立されました。スミスはモルモン書を啓示した天使から金の皿を与えられと主張しました。それは福音の真理と、御子なる神としてのイエス・キリストの本質を損なう書物でした。つまり、これは誰かが「私こそ主だ!」「あなたは本当のイエスも神の御言葉も知らない、それはここにある」と主張している例です。モルモン教はその高い道德観、キリスト教的な言葉、プロテスタント教会のような雰囲気から、数多くの信者やキリスト教に親しんでいた人々を惑わしてきました。このような対立は弟子であること、弟子を作ることを難しくしています。弟子訓練をこのような状況でどう果たしていけば良いのでしょうか。私たちを取り巻く世界が崩壊し、誤りが蔓延する中で、私たちはどのように弟子として成長していけば良いのでしょうか？

その答えは5節の**人に惑わされないように気をつけなさい。**に暗示されています。弟子たちは何から離れてしまっていたのでしょうか？それは、彼らが3年の間にイエス様から聞き、イエス様について学んだことすべてからでした。今日、私たちは聖書から同じことを学んでいます。霊的な葛藤の中で私たちの信仰を支える弟子としての土台は、神の御言葉です。神の御言葉から離れるとき、それは私たちが惑わされる時です。世界情勢に対する心配や懸念が、イエス様にある希望を見失わせます。ですから、イエス様の言葉を借りれば、目にするものすべてに気をつけるのです。警戒心を持つべきです。

そして、私たちの信仰と弟子としての成長の確固たる土台としての神の御言葉への信頼は、その対立が非常に個人的なものになるとき、さらに重要になります。なぜなら、確実な敵対が弟子教育を困難にするからです。このセクションの最後の部分である9-13節を見てください。

**9 あなたがたは用心していなさい。人々はあなたがたを地方法院に引き渡します。あなたがたは、会堂で打ちたたかれ、わたしのために、総督たちや王たちの前に立たされます。そのようにして彼らに証しするのです。10 まず福音が、すべての民族に宣べ伝えられなければなりません。11 人々があなたがたを捕らえて引き渡すとき、何を話そうかと、前もって心配するのはやめなさい。ただ、そのときあなたがたに与えられることを話しなさい。話すのはあなたがたではなく、聖霊です。12 また、兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に逆らって立ち、死に至らせます。13 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。**

戦争につながる国家間の憎しみは、迫害の中でクリスチャンに個人的に向けられます。もちろん、イエス様はこの12人に語っておられるのですが、そのうちの11人はキリストに従ったために迫害されることになります。そしてイエス様は、彼らが信仰のために迫害されること、時には家族の手によってさえ迫害されることを保証されているのです。一方では、イエス様は弟子たちのために意図されてこのようなことを述べられたのですが、イエス様は明らかにより広い網を打ち、もしあなたがキリストに従うなら、これが保証であると言われているように思えます。迫害に遭うことは保証されているのです。これは弟子や信者を得るための効果的な方法とは言えないでしょう。

イエス様は、「私について来なさい。そうすれば、人々に嫌われ、家族に嫌われ、政府に殺されることもあるだろう」と言われているのです。なんとという招きでしょう！それでもなお、私たちはイエスの弟子であり続け、キリストに従うよう他の人々に呼びかけるよう求められています。迫害を待ち望んだり、迫害を求めたりするという意味ではありません。イエス様はおっしゃいます。**用心していなさい。**日本や私たちの出身国の多くでは、極端な迫害について考えることはありません。しかし、現実には迫害は世界中で起きています。私たちはそのことを知っています。毎

週、実際に迫害を受けているそれらの国のために祈っています。しかし、私たちには決して起こりえないと思っています。

1612年に徳川幕府がキリスト教を禁止する前、日本のキリスト教徒の多くもそう考えていたのではないのでしょうか。あるいは、1917年のボリシェヴィキ革命以前のロシア人もそうではなかったのでしょうか。あるいは、1949年以前に中国に住んでいた人たちも。つまり、問題は迫害があるかどうかではなく、いつ、どこで、どの程度深刻なのか、ということなのです。最も血なまぐさい世紀であったことに加え、ある調査によれば、20世紀はキリスト以来のどの世紀よりも多くのキリスト教殉教者を生み出しました。迫害は減るどころか、より激しくなりました。

そして、たとえそれが死に至るものであったとしても、私たちにその迫害を乗り越えさせてくれるものは何でしょうか？その答えは、聖霊です。11節に注目してください。**話すのはあなたがたではなく、聖霊です。**使徒ヨハネによる福音書では、ヨハネ14章で、聖霊は私たちの助け主であり、慰め主とも訳されています。ヨハネによる福音書14章27節は、私たちの助け主の存在が平安をもたらすと教えています。

**ヨハネの福音書 14章27節 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。**

聖霊は、壊れ、ますます分裂していく世界に平和を与えてくれます。だから、イエス様は今日、私たちにこう言われます。心を騒がせるな。恐るな！私はあなた方に平和を与える。イエス様の弟子となることは簡単なことでしょうか？キリストに従うためには、犠牲や代償が必要なのではないでしょうか？もちろんそうです。しかし、神の御言葉と聖霊の働きによって、私たちの救い主イエス・キリストにますます近づいていくときに与えられる希望と平安があります。キリストが再臨されるまで、私たちに、9節にあるように、他の人々の前でイエスを証しする使命があります。そして、その証は迫害をもたらすかもしれませんが、キリストが再臨される前に、**すべての民族に宣べ伝えられなければなりません**と10節で約束されているこの福音は、敵に直面しても、人生を変え、弟子を作るのに十分な力を持っていることを私たちは知っています。ですから、使徒パウロはローマ人への手紙1章16節でこう書くことができました

**ローマ人への手紙 1章 16節 私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。** 私たちが聖餐式を行うたびに宣言し、繰り返し語るのは、その福音です。私たちは罪のために罰せられ、砕かれるに値する罪人ですが、私たちのために砕かれ、命をなくされた救い主がおられることを宣言します。私たちに、私たちの罪のために死んで血を流し、その彼の傷によって私たちは癒された、救い主がいるのです（イザヤ書 53 章 5 節）。もしあなたが今日、その救い主を知っているなら、イエス・キリストを主として救い主として受け入れ、主に従順にバプテスマを受けておられるなら、ぜひこの主の晩餐の食事に参加していただくようお招きします。イエス・キリストを救い主として受け入れていない、またはバプテスマを受けていない方は、参加をご遠慮なさってください。親御さんにとって、お子さんにこの食事の大切さを教える最善の方法は、準備ができていない場合は参加させないことです。私が祈った後、執事が礼拝堂の四隅からパンと杯を配ります。全員に配られた後、共にパンと杯に与ります。祈りましょう。

## Mark 13:1-13 The cost of discipleship

Today, we start chapter 13 of Mark. Again to refresh us on where we are at in this book, we are likely still talking about events that happened on the Tuesday of Jesus's final week of life on earth. But now, Jesus's entire focus is on his final days with his disciples before his death. There will be no more public ministry, only these 12 men. Jesus wants to prepare them for his coming death his resurrection, and after he ascends back to Heaven and is no longer with them in a physical way. This makes chapter 13 rather difficult, as it is clearly largely prophetic. We may not agree on all the interpretation of the prophecy and that is fine. I don't believe that eschatology or the study of future things in theology is something that needs to divide believers, and we don't take an official position doctrinally at YIBC on a particular view. So, while I will make some statements regarding interpretation, I will try to focus most heavily on the practical side of what Jesus is trying to get us to see no matter how we interpret the details of Mark 13. And this week's passage of just the first 13 verses is not as difficult as the second half of the chapter.

This passage unfolds in three different parts to his discussion, as Jesus tells his disciples what the cost will be as his follower. Let's start **with the absence of a physical location makes discipleship difficult**. Mark 13:1-2 says, **13 And as he came out of the temple, one of his disciples said to him, "Look, Teacher, what wonderful stones and what wonderful buildings!"** **2 And Jesus said to him, "Do you see these great buildings? There will not be left here one stone upon another that will not be thrown down."** The Roman ruler Herod had who ruled when Jesus was born had rebuilt and restored the temple that had been built by those who returned to Israel after the period we know as the Babylonian captivity. Historical records tell us that at this point in Jesus's life, the temple would have been finished rebuilding and restoring only a few years before this. So to look at the temple would have awe inspiring. The beautiful gleaming white temple that historians tell us was covered with gold on the front was one of it not Herod's greatest building projects. So, of course the people of Israel including the disciples were proud of their temple which represented to the world the glory of their God that they claimed to worship in a visible display of that glory. For the Jews, the center of their worship of God was centered there in Jerusalem at that temple. Of course they gathered in local synagogues and worshiped together, but all of them would have looked forward to the opportunities to worship at the actual temple in Jerusalem.

And of course Jesus has just spent an entire day teaching in that temple, so there is no inherent problem with having a place dedicated to worship and teaching that draws people to God. But what happens when that place is gone? That is what Jesus tells his disciples is going to happen. This is the first prophecy that he gives them in this chapter. This beautiful temple where their worship and their faith is centered will be destroyed less than 50 years later when the Roman army would destroy the temple completely in 70AD. One of the things that at least points to the fact that Jesus was who he claimed to be was the fact that he prophesied things that are easily verifiable that they happened. There was a rebellion against Roman rule in 66AD and the Roman government squashed the rebellion by destroying the city of Jerusalem and especially the temple. There was nothing left of the building when they finished.

By the time that event happened, the disciples were in the process of building the church that was begun after Jesus left, and the church did not focus on buildings. [Acts 2:46](#) tells us about these first Christians... [They were] [day by day, attending the temple together and breaking bread in their homes, they received their food with glad and generous hearts](#). They were at that time, still gathering in the temple to worship together, but they were also

gathering in homes and sharing meals together. Many chapters later, after Christians had been kicked out of the temple and the local Jewish synagogues, we read in [Acts 12:12](#) about where they met to pray. [12 When he realized this, he went to the house of Mary, the mother of John whose other name was Mark, where many were gathered together and were praying.](#) The believers had gathered in a house to pray. Now, of course, their houses were different, with large courtyards that many people could gather in. But the point remains, that the focus of discipleship in the church had moved from being focused in a building to simply gathering with other people to worship and grow in the Word of God together. Discipleship and making disciples would be easy if it were enough to just get people to come into a building. Some of you here today are in the building we meet in that we call a church building, but you are not followers of Christ. It would be easier if discipleship did revolve around religious acts in a building. If I offer this sacrifice and say this prayer and do this thing that happens in this building, then I am a worshipper of God, or a follower of Christ. Certainly, a building can be beneficial in making disciples, but we must never confuse following Jesus and being his disciple with having a building to come to. As I try to remind us of every week, you are the church when you leave here, as much as you are the church gathered in worship in this building. We are in the disciple making business, and if God decides to take away this building that will still be our mission to become disciples ourselves and make disciples of others.

But its not just the loss of a temple, a place for worship that makes that difficult, it is **the presence of conflict that makes discipleship difficult.** Look at verses 3-8. [3 And as he sat on the Mount of Olives opposite the temple, Peter and James and John and Andrew asked him privately,](#)<sup>4</sup>“Tell us, when will these things be, and what will be the sign when all these things are about to be accomplished?” <sup>5</sup> And Jesus began to say to them, “See that no one leads you astray.<sup>6</sup> Many will come in my name, saying, ‘I am he!’ and they will lead many astray. <sup>7</sup> And when you hear of wars and rumors of wars, do not be alarmed. This must take place, but the end is not yet.<sup>8</sup> For nation will rise against nation, and kingdom against kingdom. There will be earthquakes in various places; there will be famines. These are but the beginning of the birth pains. With the beauty of the temple still in view, the disciples (4 of them anyways) naturally ask what seems to be the obvious question, “when will this happen?” This is the same question that we often ask about prophecy. Many people throughout history have studied the Bible for the purpose answering that question, especially when Jesus will return. But Jesus doesn’t give them a specific answer, because there is a purpose in the prophecy. The purpose is to warn us and to keep us looking forward to what is coming. If we knew the exact time Christ would return, we would not live in the way we are commanded with the expectation that he could return any time. The “not knowing” actually grows our faith and gives us hope in our relationship with Christ that could be fully realized at any time either by death or by his return. That is why [Titus 2:13](#) can say that we are [13 waiting for our blessed hope, the appearing of the glory of our great God and Savior Jesus Christ.](#)

So, Jesus doesn’t give them the answer they are expecting. Instead, he says, **“this must take place”**...and he seems to be referring back to the temple destruction... and that this will come with wars and natural disasters that will seem to never end. It’s incredible how true Jesus’s statement has ended up being. We are 2000 years down the road from this point, and the 20th century was the bloodiest in the history of the world, with more lives lost to warfare than any other period in time. But even before the 20th century where the worldwide nature of war and new technology created greater capacity for loss of human life, the world has never been at peace. In the United States, the way I was taught world history and US history was essentially by which war we were fighting that brought about changes

on the world or national landscape. And wars continue to this day, and even peace seems very tenuous and weak when we look at the news. That same news brings several times a year now stories of major natural disasters like earthquakes and famines. But Jesus's point is that the role of being a disciple and making a disciple does not change in the face of world conditions and conflict. War will come. Natural disasters will come. And the true disciple will continue to follow Christ through it all. That will be made even harder because verse 6 says, **“Many will come in my name, saying, ‘I am he!’ and they will lead many astray.** In fact throughout history some of those wars have been started by messianic figures who at some level claimed for themselves the same power that Jesus himself did. That conflict in the world has been seen in conflict against true Christian faith, as various false religions have risen by people claiming to have new information from God or even that they are the return of Jesus. The Mormon, or Latter Day Saints, were established because Joseph Smith who had been raised with basic Biblical understandings claimed that he had received a vision that said all modern churches were corrupt. He claimed to be given golden plates by an angel that revealed the book of Mormon. It is a book which undermines the truth of the gospel and the nature of Jesus Christ as God the Son. So this was an example of someone saying, **“I am he!”** **“You don't know the real Jesus or God's Word, here it is.”** Mormonism because of its high moral values, and Christian language and protestant church feel has misled many many believers or those who were at least familiar with Christianity. All this conflict makes being a disciple and making disciples difficult, so how do we do discipleship in this environment? How do we grow as a disciple with the world around us falling apart and error so prevalent? The answer is inferred in verse 5 **“See that no one leads you astray.”** What would the disciples have been led astray from? It was everything they had heard and learned from and about Jesus over their 3 years time. Today, we learn those same things from the Bible. Our foundation for discipleship for anchoring our faith in the middle of spiritual conflict is the Word of God. When we get away from the Word of God, that is when we are led astray. That is when our worry and concern about the world situation causes us to lose sight of the hope that we have in Jesus and be alarmed to use Jesus's term at everything we see.

And this reliance on God's Word as a firm foundation for our faith and growth as a disciple becomes even more important when that conflict becomes very personal. Because the **guarantee of opposition makes discipleship difficult.** Look at verses 9-13, the final part of this section. **“But be on your guard. For they will deliver you over to councils, and you will be beaten in synagogues, and you will stand before governors and kings for my sake, to bear witness before them. <sup>10</sup> And the gospel must first be proclaimed to all nations. <sup>11</sup> And when they bring you to trial and deliver you over, do not be anxious beforehand what you are to say, but say whatever is given you in that hour, for it is not you who speak, but the Holy Spirit. <sup>12</sup> And brother will deliver brother over to death, and the father his child, and children will rise against parents and have them put to death. <sup>13</sup> And you will be hated by all for my name's sake. But the one who endures to the end will be saved.** The hatred between nations that results in wars will be directed personally against Christians in persecution. Of course Jesus is speaking to these 12 men, 11 of whom, would be persecuted for following Christ. And Jesus is guaranteeing them that they will be persecuted for their faith sometimes even at the hands of family. On the one hand, Jesus intended these remarks for his disciples, but it does seem that Jesus is clearly casting the net wider and saying that if you are a follower of Christ, this is the guarantee. You are guaranteed to face persecution. This isn't exactly an effective way to gain disciples and followers. Jesus is saying “follow me, and I guarantee that people will hate you, your family may hate you, and the government is going to try to kill you sometimes.” What an invitation! And yet, we are still called to remain his disciple and to call others to follow Christ. It doesn't mean that we look forward to persecution or seek persecution, but Jesus says, **“be on your guard.”** Be ready for when it

does come. By living in Japan or in most of the nations we come from, extreme persecution is not something that we think about. It is out there...we know it happens, we pray for a different country with real persecution every week, but it will never happen to us. That's what many Japanese Christians may have thought before the Tokugawa Shogunate banned Christianity in 1612. Or Russians before the Bolshevik Revolution in 1917. Or those living in China before 1949. So the question is not if there will be persecution but when, where and how severe. In addition to being the bloodiest century, the 20th century according to some research produced more Christian martyrs than any previous century since Christ. Persecution became more intense rather than less.

And what is it that will get us through that persecution, even if it leads to death? The answer we see here in the text is the Holy Spirit. Notice verse 11, **for it is not you who speak, but the Holy Spirit**. In the gospel according to the apostle John, he tells us in **John 14** that **the Holy Spirit is our Helper**, sometimes translated comforter. **John 14:27** tells us that the presence of our Helper bring peace. **27 Peace I leave with you; my peace I give to you. Not as the world gives do I give to you. Let not your hearts be troubled, neither let them be afraid**. The Holy Spirit gives peace in a broken and increasingly fractured world. So, Jesus says to us today, **"do not be anxious" "do not be alarmed" my peace I give to you!** Is discipleship easy? Is there a cost and a sacrifice to following Christ? Yes. But there is a hope and peace that is ours through the Word of God and the work of the Holy Spirit as we grow closer and closer to our Savior Jesus Christ. Until Christ returns we have a mission **to bear witness** of Jesus before others as verse 9 says. And though that witness may bring persecution we know that this gospel that is promised in verse 10 to be **proclaimed to all nations**, before Christ's return is powerful enough to change lives and make disciples even in the face of its enemies. So, the Apostle Paul could write in **Romans 1:16**, **For I am not ashamed of the gospel, for it is the power of God for salvation to everyone who believes, to the Jew first and also to the Greek**. It is that gospel that is proclaimed and that we rehearse each time we take this communion meal. We proclaim that we are sinners who deserve to be punished and crushed for our sin, but that we have a Savior who was broken and crushed for us. We have a savior who died for our sin and shed his blood **and with his wounds we are healed (Isaiah 53:5)**. If you know that Savior today; if you have accepted Jesus Christ as your Lord and Savior and been obedient to him in baptism, then I invite you to participate in this Lord's Supper meal today. For those who haven't accepted Jesus as Savior or been baptized, I would ask you to refrain from partaking. For parents, the best way to teach your children the importance of this meal is to not allow them to participate if they are not ready. After I pray the Deacons will serve the elements from the four corners of the sanctuary and once we have all been served, we will eat together and drink together. Let's pray.